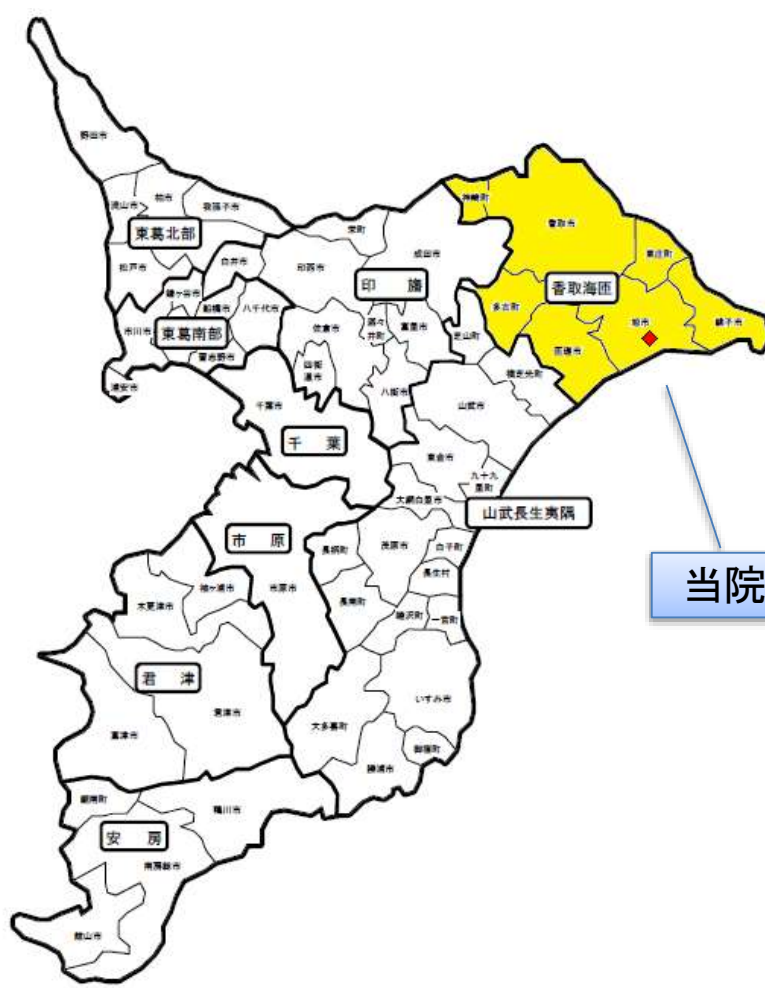


香取海匠地域リハビリテーション広域支援センター活動報告

総合病院 国保旭中央病院 診療技術局リハビリテーション科



1. 香取海匠圏域の概要



構成市町村数: 4市3町
(銚子市・旭市・匝瑳市・香取市・神崎町・多古町・東庄町)
面積: 717.4km² (対全県比 13.9%)
総人口: 262,351人 (対全県比 4.2%)
生産年齢人口: 141,938人
高齢者人口: 93,431人
高齢化率: 35.6% (全県 27.1%)
*2020年現在

—地域医療情報システム JMAPより—

2. 香取海匠地域リハ・パートナーの状況

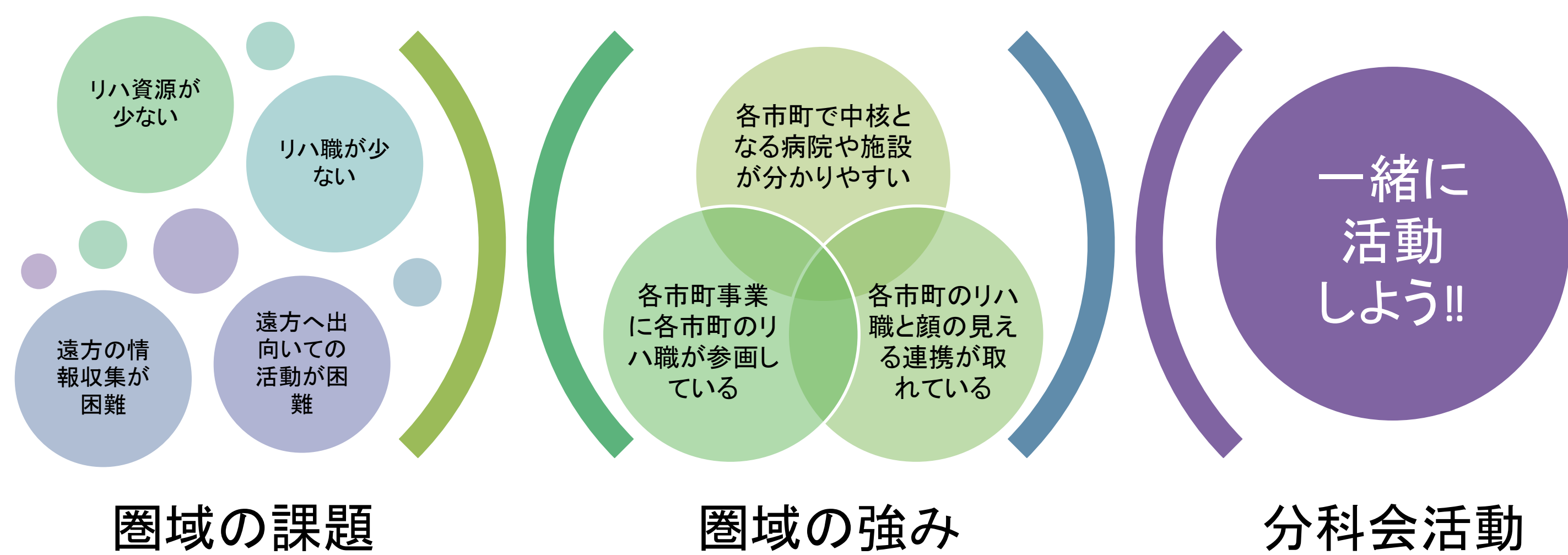
施設数: 13

(病院: 6、老健: 1、訪問看護: 2、デイサービス: 3、歯科医院: 1)

協働状況

- 連絡協議会・パートナー会議への参加
- 分科会活動への協力
- 研修会・意見交換会への参加
- 地域リハ出前講座での人材協力 など

3. 香取海匠圏域の課題と活動を行う上で重視しているポイント



『地域ネットワーク支援班』

障がい者交流会「和希楽会」の運営を通しての、障がい者の社会参加の推進と情報共有



『生活期リハ活動支援班』

生活期リハに関する質の向上や関係職種間の顔の見える連携づくりの推進



4. これまでの活動紹介

【①連携支援体制の構築】

- ◆香取海匠地域リハビリテーション連絡協議会
- ◆香取海匠圏域 地域リハ・パートナー会議
- ◆生活期リハビリテーション活動支援班会議(分科会)
- ◆地域ネットワーク支援班会議(分科会)
- ◆旭市リハビリテーション専門職連絡会(仮称)

コロナ禍ではオンラインや書面開催となっています。オンライン会議になったことにより、平日中開催や遠方の参加者が会議に参加しやすくなったというメリットもありました。

【②市町村への事業協力】

- ◆地域ケア個別会議への参加(助言者)
- ◆地域ケア個別会議運営支援(アドバイザー)
- ◆介護予防サポーターの養成支援
養成講座講師、リーダー研修会講師など
- ◆住民主体の通いの場への支援
体操の監修・DVD作成協力
立ち上げ支援・継続支援
全体会議講師
- ◆介護予防事業に係る意見交換会への参加
- ◆総合事業受託(リハ職同行訪問事業、通所C、訪問C)

当院の所在地である旭市には地域ケア会議の助言者や通いの場の立ち上げ支援などの直接的な支援を行っています。それ以外の市町では、行政・リハ職のアドバイザー的な立ち位置での間接的な支援を行っています。

【③相談支援・講師派遣】

- ◆講師派遣
老人クラブ総会「介護を必要とする体にならないために」
寿大学『腰痛予防』
グループホーム『利用者の高齢化への対応について』
特別養護老人ホーム『ADL評価』
ケアマネジャー連絡会『リハビリテーションの現状と今後』
介護予防初任者研修講師『リハビリテーション』 など
- ◆保健所との連携
リハビリテーション専門職による訪問相談事業
神経難病の講演会・情報交換会 講師

訪問相談事業では、保健所の保健師と同行して神経難病患者宅を訪問し、リハビリテーションの観点から、生活上での困りごとや今後のサービス利用についての助言などを行っています。

平日夜のオンライン開催により、平日夜に会場参加で参加率が下がるリハ職と、土日開催の参加率が下がる行政・介護・福祉職がともに参加しやすくなったように感じています。

会場参加であった時より、参加者数が増えたり、参加職種が増えた研修会がありました。

生活期リハ研修は分科会活動として、年2回、参加施設の持ち回りで研修内容を企画しています。講義・実技・グループワーク等、様々なテーマや形式で、多職種参加の研修会としています。



【④研修会等の実施】

- ◆リハビリテーション講演会・研修会

最近のテーマ:
『地域包括ケア時代の地域連携』
『みんなで取り組むフレイル予防～在宅医療の視点から～』
『リハリスタッフが知っておくべきフレイル・サルコペニア』
『がんのリハビリテーション現状と今後』
『高次脳機能障害について知ろう』
『知ろう! 学ぼう! 香取海匠地域の介護予防とリハ職の取り組み』
『2025年に向けて実践すべきリハビリテーションとは?』 など

- ◆生活期リハ研修会

最近のテーマ:
『コロナ禍の地域リハ活動について考えよう』
『地域包括ケア病床について』
『デイケアとデイサービスの最近の動向』
『在宅でのコメディカルの役割を知ろう』
『退院支援について一緒に考えてみませんか?』
『訪問リハビリの役割と効果について』
『どこに住むか? キャンパー症候群の症例について考える』
『福祉用具を用いた移乗方法をマスターしよう!』 など

- ◆地域ケア個別会議助言者向け意見交換会

【⑤障がい者交流会『和希楽会』の活動】

- ◆和希楽会全体集会の開催(年1回)

最近の講演テーマや内容
『障がい者目線で考える地域づくり』
『車いすでも行ける銚子の観光名所』
『パラスポーツ紹介・体験』
『車いすダンス披露』
『地域の障害者団体・サークルの紹介』 など

- ◆和希楽会ニュースの発行(年2回)

- ◆和希楽会マッチング活動

・公園散歩
・釣り
・ゴルフ
・料理教室
・食事会
・いちご狩り
・施設見学
・オンライン交流会 など

コロナ禍でも感染対策を講じ、散歩やゴルフなどの屋外活動を中心に活動を継続していました。今後は状況をみながら、料理や食事会などの屋内活動を再開して行ければと考えています。

【その他の活動】

- ◆地域リハビリテーション出前講座
- ◆病院祭りへのブース出展
- ◆九都県市合同防災訓練への参加
- ◆各種会議、協議会、意見交換会等への出席 など



出前講座では、小学校高学年を対象に、車椅子体験やリハ専門職の紹介などを行っています。

九都県市合同防災訓練では、開催圏域の広域支援センターが千葉JRATの一員として、避難所設営訓練や防災フェアでのブース展示などに参加しています。

5. 今後の課題と展望

課題① 研修会の開催形式や時間帯について

- オンライン開催により、参加者の幅が広がった
- 職種により参加しやすい時間帯等に傾向がある
- 研修目的や対象に応じた開催形式や時間帯の検討

課題② 対面交流活動の再開について

- 飲食を伴う活動に関する対策と責任
- 参加者の意向や意欲・抵抗感の差
- 社会情勢や参加者の意向などを鑑みながら徐々に再開していく

課題③ 広報活動について

- 住民への地域リハビリテーション活動に関する広報や啓発が不十分
- 和希楽会活動参加者の伸び悩み
- ターゲットに届きやすい広報媒体の検討

課題④ 圏域内リハ専門職との連携について

- 地域リハ・パートナー施設数がまだまだ少ない
- 広域支援センターの活動や各施設の地域リハ活動を他施設のリハ職が把握できていない
- 職能団体や市のリハ連絡会なども情報交換しながら、支援連携体制を検討